

# おおたに写真だより

平成26年7月3日

編集者

北九州市立大谷小学校

校長 池町 真一

## 助産師の畑中さんに学ぶ PART2!!

大谷小学校では、7月3日(木)に、助産師の畑中さんをお招きして、2回目の「いのち」の授業を行いました。今日のテーマは「ふたりでひとり」。「双子の子どもの話かな」「夫婦の話かな」どんな学習かな?毎回子どもたちは、新しいことを知ることに喜びを感じているようです。



二人で一人は、赤ちゃんとお母さんの話。  
「二人で一人」は、赤ちゃんをお腹に抱えたお母さんのこと。二つのいのちがお母さんのお腹の中でつながっているということ。  
また、お母さんはいつも二人のいのちを抱えながら約10ヶ月の間大切に育ててくれているということに気づきました。



座るのにも一苦労しました。その上に、座って、靴下を脱いだり、足のつめを切ったりするとき、お腹が碍えて自由に体が動きません。



寝るとき、お腹を上にして寝るとお腹の重みで寝ることができません。だから横向きに寝るようにします。



寝て起きるときは、お腹に力を入れないようにそおと、お腹を抱えて、手で支えながらおきてくるんです。妊娠中は、ひとつの動作にも気を使います。

妊娠中、約10ヶ月の間、お母さんは一つ一つの動作にも気を使いながら生活をしてきていたんだね。妊娠体験グッズは、8ヶ月のときの赤ちゃんがお腹にいるときに体験ができるそうです。重さは、約10キロもあり、赤ちゃんの重さだけでなく、羊水や胎盤などを併せると、それぐらいの重さになるそうです。装着しながら一つ一つの動作を体験してみると、わたしのお母さんの大変さがわかりました。



お母さんありがとう。

妊娠体験をしてみて、私がお母さんのお腹の中にいたとき、どんなにお母さんが大変だったかがわかりました。寝るとき、座るとき、ご飯を食べるとき、服を着るとき、いろんなときが大変だったけれど、お母さんは我慢して私を生んでくれました。お母さん、ありがとう。いっぱい感謝します。